

躍進

YAKUSIN

VOL. 4

株式会社加藤組社内報「躍進」1987・Vol 4

発行/株式会社加藤組

男鹿市脇本脇本字向山18の6 TEL(0185)25-2235代

発行日/62年1月1日 印刷/秋田協同印刷株式会社



株式会社 加藤組

光飯商事株式会社 日本アスコン株式会社
秋田ブロック工業株式会社 秋田建設運輸株式会社

新年号

く



熊谷 敏夫(昭和2年2月16日生)
株加藤組・技術担当社長室長
47年間、加藤組の隆盛に尽くしてこられた各位に敬意を表すると共に私も一員として全精力を投入していく決意であります。

か



加藤 政雄(昭和2年5月30日生)
株加藤組・取締役土木部部长
「一日一善」を心がけ、悔の残らぬよう充実した一年にしたいと思っております。

た



武田 由美子(昭和38年4月1日生)
株加藤組・秋南営業所
一日、一日を大切に、今年こそ計画を立てて、やりかけた事やりたかった事を成し遂げるよう努力したいと思います。

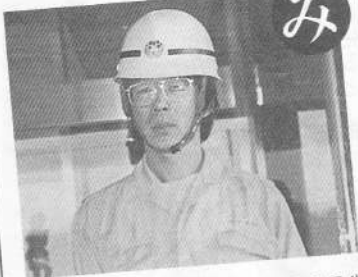
1987

あけまして おめでとうございます

飛躍の年だ がんばるぞ

うさぎ歳生まれ

み



三浦 秋広(昭和26年10月6日生)
株加藤組・建設機械課
車輛になって2年目ですが、まだまだ未熟。今年こそは、車輛の一員の名に恥じない年になりたいと思います。

ふ



船木 金次(昭和14年1月28日生)
株加藤組・技術管理部係長
残るはゴール前の直線コースのみ。今年を再スタートの基点と考え、健康で充実した年になるよう心がけます。

や



安田 兼義(昭和14年8月20生)
株加藤組・建設機械課
歲月人を待たず「馬を走らせながら物事を見、馬から降りて物事を見る」過ぎた年を悔い改めて充実した年を迎えたいと思います。

な



中村 義宜(昭和38年11月23日生)
株加藤組・土木課
「先難後獲」例年の目標ですが初心にかえる謙虚な姿勢が大切だと思います。みなさん、今年もよろしく願います。

す



鈴木 浩悦(昭和38年2月27日)
日本アスコン・男鹿工場試験室
入社して四年目の今年はひとつの節目。専門知識を深めてコンクリート技師の資格を取り、即戦力となる人間をめざします。

新しい年の始めに



会長 加藤 義孝

謹んで新年のお慶びを申し上げます。皆さまにはお変わりなく初春をお迎えのことと存じます。

茶道を興した千利休が愛好した歌に
「花をのみ待つらむ人に山里の 雪間の草の 春を見せばや」
というのがありますが、今

日会社があるのも、陰に陽に基礎作りをして下さった従業員の方々と、沢山の地域の皆さまと、人たちの協力があればこそなのです。この歴史の重みを感じて、しっかりと見きわめ、地域社員に還元できる仕事をしたいものです。明日への夢をつなぐ仕事を、社員一同、全社あげて、気運を育てていって推し進めて行きましょう。きたいと思えます。

昨年、我が国にとっては試練の時でした。地方にもその波がふりかかり、大、中、小企業も、企業存続のため懸命に頑張った一年ではなかったでしょうか。これを克服するには、取引先はもとより地域に密着し、いかに良い仕事を、誠意をもってやるか、ということしかないので、自らを

鍛磨し、高め、相手には謙虚な心で対することが必要だと思えます。

男鹿の経済も国際化の波を受ける時代です。もはや男鹿の中だけで物事を見ては取り残されるばかりです。日本全国に、そして世界に視野を広げ、自らの枠も取り除き、可能性をもっと引き出し

ていきたいと思います。男鹿に眠っているのは資源ばかりではありません。人間こそ無限の可能性を持っているのです。社員に自己の力を出せるよう、チャンスを出せるだけ多く作るのが会社



副社長 加藤 義孝

新年おめでとございます。昨年中は、公私ともに皆さまにお世話になりました。厚く御礼申し上げます。



総務部・部長 佐藤 健一

高不況と、我々業界をとりま

モチ列に 頑張ります

く経済環境は厳しいものがありました。総務部は会社の中核として重要な役割を担っており、その職務も多岐で個々に見ると、指摘される点も多かったと反省しております。また、他の部と連携して庶務規定を作成しましたが、これは、各自の職務を明確にし、事務の効率化を図る上で意義があったと思えます。

私自身としては、健康を害し長期入院のために皆様に多大なご迷惑をおかけしたことを心から反省し、お詫びいたします。

本年も厳しい状況が続くと思われ、総務部一同気を引き締めてより一層の充実を図ってまいりたいと考えております。よろしくお願いたします。



土木部・港湾次長 鈴木 耕一

一刻たりとも留まることのない港湾作業を錬磨し、遂行

めざせ、未来。

反省と、今年の抱負

するために「各船舶の無線連絡の徹底と救命胴衣の完全着用」を重点目標に掲げて、艱難辛苦に打ち耐えた一年でした。戸賀湾の工事ははじめ、船川港の石油備蓄、門前の防波堤等々、危険をはらんだ海上作業でしたが、一件の人身事故もなく、工期前に全工事を完成させ、精算結果も実行予算内に納めることができたのも港湾課全員が一丸となつて立ち向かった賜物だと思えます。港湾課の皆さま、本当にご苦労さまでした。

とは言え、反省点がないわけではありません。起重機船の船底損傷トラブル、クレーンエンジンの故障による工程への影響等です。今年はずっとシビアな日常点検、施工時のより綿密な縦横の連携プレーを図り、諸問題を解消してゆきたいと考えております。

一人一人の仕事に対する熱意と積極的な行動が、より高い利潤の追求とより高度な技術の錬磨を生み、融和と協調のある和やかな職場をつくるよう、私の微力を尽くす所存です。



土木部・次長 太田 健一

昨年は工事の着手が遅れて他部署にご迷惑をかけた。今年は、工事の受注が益々厳しくなることが予想されます。良い品質で、出来映えの良い工事を、より安く完成すること。今こそ、社訓「協力一致して事にあたる」を肝に銘じて、部員一同やりぬく所存です。



建設機械部・次長 沢木 芳雄

昨年は機械の整備に明け暮れた、という感じがします。部品交換に工費をかければ良くなることは知っていても、

独創性を探ろう



社長 加藤 義光

新年あけましておめでとう
ございます。

昨年はずち続く不況の中で
全社あげての業績アップ気運
が盛り上がり、満足とは言え
ないまでも、業務に活気が増
し、将来の見通しも明るいと
確信いたしました。本年も、
ひきつづき、高めた意識に磨
きをかけ、加藤組の新しい世
界を築いてゆきましょう。

経済の基本的な関係に、需
要と供給というものがありま
す。いわゆる、今までは「需
要があるから供給する物が生
産される」と思う人が大半で
した。しかし、よく現実を見
てみると、物（供給）があっ
て初めて買う（需要）行為が
生まれるのです。これまで、
時代をリードしてきた商品は

供給が先になって生まれてき
ました。つまり、潜在してい
る需要に目をつけ、一つの形
で供給すること、それが独創
性というものです。

建設にしても、これまでの
概念である建物、住宅、施設
という需要ばかりではありま
せん。施主が望むものに、さ
らに可能性をプラスして、新
しい提案をすること。建物の
物以上の価値が今後はさらに
求められてゆくでしょう。営
業で、現場で、工場で、需要
に潜在しているものをどんど
ん見つけ出してください。

また、このような社員一人
一人の働きの裏づけとなるが
技術力の集積です。日進月歩
の業界の技術革新に一秒たり
とも遅れぬ覚悟で取りくまな
ければなりません。

確かな技術力と、そして安
全最優先の意識を高めること。
この二つは車の両輪であり、
どちらにも一朝一夕には成らぬ
技です。

一人／＼の日々の積み重ね
を確実に業務に反映し、一層
の飛躍をはかりたいと思いま
す。

おかげさまで、なまはげユ
ーモ輪村も順調に開村でき、
イベントも好評のうちに完了
いたしました。男鹿をふるさ
ととする者にとって、この停
帯は歯がゆく「何とかしたい」
という一心で、気がついたら
駆け出していったという状態
でやっただけですが、やってみ
たら「オレもそう思う」という
人が次々に出て来てくれて頼
もしい限りでした。しかも、
その間は、会社の皆さまにも
何かと面倒を見ていただき本
当に感謝しております。今後
はユーモ輪村を男鹿興しの源
となるよう成功させることが
皆さまへの一番の恩返しと考
えますので、未永く見守って
くださるようお願いいたしま
す。

今こそ、地域の皆さまに育
てていただいた加藤組が、地
域に奉仕する時です。

使える物を粗末にすることは
出来ません。早目の交換が場
合によっては得でも、その判
断がなかなか難しい場合もあ
ります。しかし、中央の高額
単価、高額工費に対する策は
考えなければならぬでしょ
う。旧年式の機械が多い機械
部においては、優良地元企業
の開発・育成・活用を図り低

単価、低額で納得しえる整備
態勢の企業を一つでも多く増
やしていく努力が必要です。
ディーラーの整備は多量の部
品交換による高額の工費稼ぎ
であることも見逃してはなり
ません。六十一年土木部重点
目標の一から遠ざかる事がな
いためには工夫が必要です。

また、鍵の管理については
その機械を注文した者、運転
する者が常に連携し、現場事
務所に保管するもの、本社に
返納すべきものの区別をハッ
キリさせて、車輛機械取扱規
則の第二条を素直に守る心を
持つことが何よりも大切だと
考えます。終業時は鍵のこと、
現場の後始末は良いか等、多
くの機械を管理するには、そ
れぞれの現場の理解と協力が
望まれるところで。

六十年は公共事業の削減
により昨年の約二十五%減の
受注額にとどまりました。民
間工事と建築工事の少ない事
が一番の原因と思われま
す。今、民間活力という言葉が



営業部・部長 伊勢 義雄

三十七年間の公務員生活を
終え、民間企業の職場に入り
ましたが、慣れるのに精一杯
で、成果はほとんど上がりま
せんでした。が、上新城の国
有林で計画している採石事業
等にもいろいろな問題点を感じ
たこともありました。それら
を克服して、軌道に乗せたい
と思っております。

まず、最大の願いは労働災
害ゼロの職場を確立すること。
そして、私自身も健康に留意
し、仕事も娯楽も一生懸命や
りたいと思います。



事業部・担当次長 梁田 耕次

入社して、早や五年。振り
返ってみると、国鉄の受注は
徐々に増えてきていますが、
何にも増して喜ばしいことは
列車に対する事故が皆無とい
うことです。以前には年に一
く二回は列車を停めていたこ
とを考えると、社員各位の努
力に感謝せざるにられません。
また、軌道工事も徐々に作業
が増え、専任の作業員も指定
して働き、その範囲も能代、
弘前、青森と拡大しているこ
とは喜ばしい限りです。



技術担当・社長室長 熊谷 敏夫



土木部

船川港双六の 通常(荒廃)砂防工事

工事概要
発注 秋田県知事
受注金額 約一億三千万円
本堤堤長50m 堤高24m 副
堤堤長41m 堤高9.9m
備考 男鹿南秋地区で初めて
の高炉セメントを使用

難工事もチームワークで突破目前

砂防工事は現場条件も悪いし、掘削も地質に左右されるため、予期しない事もありました。岩盤の崩壊です。幸い安全面には特に注意しての施工となりました。

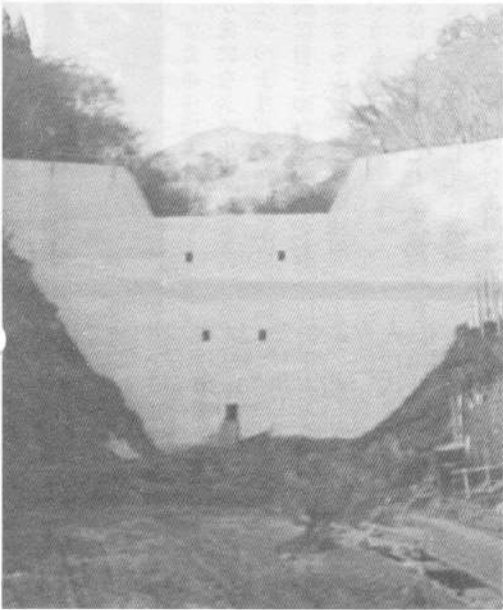


土木部 柴崎司主任

石川兼五郎現場世話役

樫漁港のトンネルを過ぎた辺りですが、初めて現場踏査をした時は、男鹿にもこんなところがあるのか、と思いましたが、日中でも一人で行けないような所でした。

昭和六十年七月二十五日に発注され、仮設道路作りや伐採は丁度夏でもあり、特に伐採された方々は大変だったと思います。測量の段階でも現地と図面が一致せず、ダムサイトとの位置を決定するまで十回の縦横断測量が行われ、決定したのは紅葉も終わる頃の十月末でした。



打設開始は雪のちらつく十二月初旬から三月初旬まで、一番寒い時期になってしまいました。施工に当たった人はかなり大変だったと思います。このような難工事ではありませんが、昭和六十年年度分の工事は一件の事故もなく完成しました。

本工事の最大の仕事は「掘削」でした。直営工事であるため、男鹿中を中心に気心の知れた人たちの手ですすめました。左岸掘削には「壊し屋」浜野勇さんをリーダーとした軍団。右岸側は世話役の石川兼五郎さんをリーダーに、船舶から鈴木金二郎さんが応援に駆けつけ、現場の雰囲気盛り上げてくれました。現場は特にチームワークが必要です。八月十日から十月末まで型枠組立および打設の繰り返しであるため、一寸の不注意が重大事故につながります。

現在副堤護岸工、留工などの工事を行っています。二月末までに無事故で完成するよう全員一丸となって頑張っています。

建築課

工事内容 通信局舎A、B、消火ポンプ室、フェンス他

自衛隊加茂通信局舎建設

雪との闘いを乗り越えて



建築課 伊藤 満

昨年八月から続いている本山(七一五m)の航空自衛隊増改築工事および通信工事最終段階に入り、ようやく防衛庁六一バツ計画も完了します。全工事内容は、建物11棟、鉄塔基礎7基、ラダー基礎40基、造成工事他多数。着工当初は意外に早く終わると思いましたが、防水工事の施工が冬期間に突入してしまい、除雪しながらの施工となり、六十年分の工事は、実際は工期終了間際までハラハラでした。

この現場のネックは、冬場の山道を登れるかどうか、また、帰り道はスリッパしないので無事に下山できるかであり、それが仕事より大きな問題でした。事実、昨年はジブがスリップして、あわや谷底に転落寸前ということがありました。

六十年一月十二日のコンクリートポンプ車による生コン打設の一件は今もハッキリと覚えています。生コン車が雪道のため登れなくなったり、ポンプ車が凍って三回配管分解したりで、打設が終了したのは真夜中の十二時でした。その後、配管を分解した時は生コンはすでにテストピストン状態になっており、また、アウトリガーも凍って引っこまない状態で、下山したのが午前三時でした。今年には昨年ほどの苦労もなく、完成検査を受けられるだろうと思っていたのですが、それもつかの間、やはり昨年同様残業の状況に落ち入り、十二月十八日現在もこの状態です。しかし、試練もまた、自分の血となり肉となると思えば、新しい年への意欲も湧いてきます。苦労は必ず次の現場で役立つことでしょう。最後に、雨の日も風の日も雪の日も最後まで応援してくれた安田主任、渡部主任に、この場を借りて感謝の意を表します。来年の五月は手直して再びお山に登っているはずで

綱引き大会

誰でも楽しめる TUG OF WAR

タッグ オブ ウォー



榊加藤組 綱引きクラブ代表
鈴木 耕一

社長の暖かいご理解のもと、綱引き競技を始めてから早や五年の歳月が流れようとしております。クラブ員一同の並々な努力の結果、全県下に「綱引きの加藤組」というイメージを鮮烈に植えつけることができました。これも偏に、周囲の皆さまの絶大な御支援の賜物と深く感謝している次第でございます。

さて、綱引き競技は古来から世界各地で親しまれ、一九六四年には国際綱引き連盟が

誕生しました。今日では世界選手権大会も華々しく実施されています。我が日本でも一九八一年二月八日、東京晴海の国際貿易センターにおいて第一回の全国大会が開催されました。当加藤組綱引きクラブも時流を素早くキャッチし第二回秋田県綱引き選手権大会に参加。初出場ながら、第三位入賞を果たすことができました。その後、第三回大会から第五回大会まで三年連続準優勝に輝いておりますが、全県制覇はまだ夢の中なのです。しかしながら、一九八三年の第三回および一九八四年の第四回全日本綱引き選手権においてクラブチャンピオン部門二年連続全国制覇を達成した実績がございます。

あの時の熱い血潮を蘇らせ、何とんでも今度こそ最高の栄冠を勝ち得たいと、クラブ員一同玉簾不断の精神で連日の激しいトレーニングに打ち込んでいます。第六回秋田県綱引き選手権大会は昭和六十二年一月二十五日・日曜日と決定しています。こ

れに先立ち、第一回男鹿市綱引選手権大会（第六回秋田県綱引選手権大会予選）が十一月三十日に行われ、男子23チーム、女子6チーム、合計29チームの参加があり、大盛況のうちに終了することができました。男子ベスト8（優勝は加藤組）、並びに女子のベスト4（第4位は加藤組桃色パワーズ）は秋田県綱引連盟男鹿支部長（加藤義光）より推薦され、県大会に出場することになりました。ぜひとも男鹿市の綱引競技発展の為に大いに活躍されることを祈っております。

一チーム8人制（男子の合計体重50kg以内、女子の合計体重40kg以内）の公式ルールが紹介されてから六年目。日本におけるスポーツ競技の歴史としてはまだ浅いのですが、近い将来（京都国体）には、国体競技種目の中に盛り込まれる運びとなりました。また、大学生や高校生のための選手権大会も検討中であります。

目を追うことに成長する大輪の花のようなTUG OF WARにぜひ、みなさまも参加してください。君もあなたも、そして、TUG OF WARを愛する誰もが光輝く太陽だ。

に先立ち、第一回男鹿市綱引選手権大会（第六回秋田県綱引選手権大会予選）が十一月三十日に行われ、男子23チーム、女子6チーム、合計29チームの参加があり、大盛況のうちに終了することができました。男子ベスト8（優勝は加藤組）、並びに女子のベスト4（第4位は加藤組桃色パワーズ）は秋田県綱引連盟男鹿支部長（加藤義光）より推薦され、県大会に出場することになりました。ぜひとも男鹿市の綱引競技発展の為に大いに活躍されることを祈っております。

- ◎◎◎打率◎◎◎
- 1位…渡辺邦明…412
 - 2位…加藤忠義…389
 - 3位…伊藤 仁…376
 - 4位…安田信幸…353
 - 5位…森元次男…349
- ◎◎◎本塁打◎◎◎
- 森元次男……………2本
 - 加藤忠義……………1本
 - 渡辺邦明……………1本



野球大会

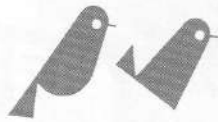


- 61年度の成績
- 加藤杯優勝
 - 脇本地区Aブロック準優勝
 - 32戦19勝10敗3分

野球部

六十一年度は新入部員が四名加わり、平均年齢が大幅に若返りました。そこで勢いを増した我が野球部は目標を加藤杯初優勝におき、シーズン突入。初参加の男鹿地区おはよう野球大会では6戦1勝3敗2引き分けと散々な成績に終ってしまい、部員の士気は盛り下る。一方でしたが、七月に入り、温度計の上昇とともにチームの熱も上がり始まりました。

第九回加藤杯では、並いる強敵をことごとく撃破し、準々決勝、準決勝は3・4・5番の強力クリーンアップの打棒が炸裂。二年連続の顔合わせとなった対ワークマニズ戦では息づまる投手戦を展開、延長8回、加藤忠義の左中間スタンドに突きささる豪快なホームランで、初の優勝を勝ち取ったのであります。最高の盛り上がりを見せた野球部でしたが、投手の伊藤仁、4番打者の加藤忠義、守備に定評のある三浦貢の三名が会社を辞めてしまい、戦力が低下。しかし、雑草がたくましく育つように、残ったメンバーで力を補充しようと、三十代の体にムチ打ちシーズン到来を待ち受けているところです。



ファミリー紹介



夏井勉さん一家

日本アスコン(株)男鹿工場
工場長・(46歳)
秋田建設運輸営業部長

昭和42年4月入社
勤続19年

妻・美智子(46歳)
長男・幸男(18歳)



「加藤組に入社してから早いもので19年になります。ひと口に19年と言うと、長いように感じられますが、入社したのがつい最近のことのような気がして不思議です。家では家内が美容院をやっておりますので、夕方、お客さんが来た時などは一人で食事を取ることもあります。これは、家内の仕事柄やむをえないことと理解しています。

子どもものしつげに関心しては、一人っ子のせい、甘い父親だと思いますが、それでも家内よりは厳しいつもりです。」
工場では仕事に厳しい工場長も、家庭にあつては、特に奥さんにやさしいご主人のようです。
長男の幸男さんも、今春卒業後の就職が内定しており、ますます将来が楽しみな夏井さん一家です。

伝言板(総務部より)



求む！アイデアマン

冬にも負けない「なまはげYouモウ輪村」は二月七日、八日の両日、雪中でイベントを敢行の予定。ただ今、寒さをブツ飛ばす元気なアイデアを募集中です。奇想天外、アツと驚く実現不可能なアイデアも考える分にはお金はかかりません。あなたのアイデアが男鹿の活性化に役立つことになりなかもれません。ユニークなアイデアをお待ちしています。



安全委員会

より

個々が安全意識を高めて



沢木委員長

昨年十一月の安全標語の募集に応募されました皆様方には心から御礼を申し上げます。安全である事は働く者全員の願いであるのに間違いはないのですが、六十一年の事故の発生状況は次のように成っております。人身事故七件(下請一件人身の絡んだ交通事故一件を含む)であり物損事故

は十件と成っております。その殆んどがヒヤリハットの車対車の接触事故となっております。各自が安全の責任者として個々の安全意識を高める事が急務かと思われまます。糸の切れた風であつてはならないので、幾等小人数の現場に於ても始業前の打合せミーティングを確実に実行し、事故の要因に対する安全対策を確実に実行すること。環境の整理された職場の中で新年は皆様方の総力に依つて0災害であるよう心から念願すると共にご協力をお願いを申し上げます。

秋南営業所は、雄平仙三地域（三十三町四村）をテリトリーとして昨年六月に、長谷川所長以下一名のスタッフで再発足しました。と申しますのも、さきに雄平出張所が開設されておりましたが、業務の拡張に伴い、独立した社屋と専任の社員の必要性から、その名称も秋南営業所と改め、湯沢市の国道十三号線沿いに建築されたものです。天気の日には、秀麗なる鳥海山が展望できる環境のよい場所にあります。



在市の業者が県都に進出する機会を窺うなかにあつて、県都から都市への展開に対し、地元業者から奇異の目をもつて見られたことは否めないようです。

「円高に明け、円高に暮れた昭和六十一年だったが、その故か企業の業種間格差が目立ってきた。建設業の業況はこの地域も他と同じく官公需の落ち込みが響いている。加えて民間工事も盛り上がりが見られない。

このような現況での営業所の仕事は、まず色々なルートからの情報収集である。必要なことは官公署に顔を売ることである。そのためには広い地域の中からある程度目標をしばり、その地域の目標に集中するのは営業政策上止むを得ないと思つている」と長谷

川所長は語ってくれましたが、テリトリーが広いだけにアクティブな営業活動を展開するためにはバックアップと積極的な参加姿勢が必要でありましょう。

当営業所の立地環境はまことに良いのですが、建物が国道の傍にあることから車の通行による騒音が開いた窓から飛びこんできて、時には電話での会話が聞きとれない事もしばしばあるとのこと。

外出がちな所長の留守をカバーしているのが昨年入社した武田さん。平鹿町の自宅から車で通勤しています。

「湯沢は雪の多いところで、営業所の屋根に1mを超え、積雪があり、軒下には2m級のつららが垂れ下がり、軒下を通るときに落ちてこないだろうか、そんな場面を想像するとき何とも言えない気持になります。朝出勤してきて玄関前の雪かき、駐車場の雪かきを大雪の中でしなげればならないと思えばとても心配です」と武田さん。

いろいろな事を含んで、またいろいろな可能性を秘め、営業所は今旅立ったばかりです。

副社長、独身生活にピリオド！

華燭の典も厳かに



去る十一月二十二日、秋田キャッスルホテル放光の間に副社長加藤義康氏の結婚式が参議院議員出口廣光氏ご夫妻のご媒妁により盛大に行われました。新婦は野口史子さん（ご覧のように才色兼

備の花嫁さんです。各界の名士五百名を招いての披露宴も華やかに進行。仕事マンの副社長も、この日は嬉しさを隠しきれず、顔はゆるみっ放し。お祝いに駆けつけた級友の冷やかしに照れることしきりでした。

仕事に夢中で、気がついたら三十を過ぎていたという副社長ですが、良き伴侶を得て、待った甲斐があるというもの。これからは、公私ともに充実し、もっと大きな力で加藤組を引っばっていただくことでしょう。お二人のお幸せをお祈りしております。



ほ・ほ・え・み
ガール

(株)加藤組・総務部

加藤洋子さん

男鹿市脇本に・昭和42年11月4日生
家族(父・母・妹・祖父母)
県立男鹿高校卒
昭和61年9月入社



新年あけまして
おめでとうございませ

私は昭和六十一年九月に入社したばかりのフレッシュユギヤルです。どうぞ、ヨロシク。

●今年のご目標

- 一、与えられた仕事は手早く確実に片づけること。
 - 二、電話の対応は聞き間違いないようにすること。
- 今年も頑張ります。

紹介者は私です

(株)加藤組 総務課長

伊藤剛樹



加藤洋子さんは九月の途中入社ですが、現在は職場にも慣れ、総務部の一員として頑張っています。特技の書道は八段の腕前であり、職場でもその実力をいかんなく発揮しております。今後の活躍を期待しています。

加藤組のあゆみ

4

昭和40年代に入り、会社も土木、舗装工事だけではこれ以上会社の発展は有り得ないと考え海上工事も手がける事に決定した。44年の4月に36t吊起重機船を横浜に於て建造竣工。漁船改造曳船2隻と台船を建造して、いよいよ本格的な海上工事の足がかりを作った。当時は大きな工事もなく、浅瀬工事や戸賀湾防波堤工事を細々とやっていた。46

47年4月に入社した時には海上工事に最も大事な船団構成、船の構造を見せてもらった。まず驚いた事は、県より払い下げ購入の起重機船は港内に居って沈んで居り全く使用不可能なことだった。これはず

合不安定となり吊能力が半減していた。また曳船についても漁船改造したものであるため本来の曳船構造で、これも一考を要するものであった。一例をあげれば現在では戸賀より船川に回航の場合4〜5時間位で出来るが当時の台船は長さ18m巾7m深さ2mの小

の曳船で曳航してもらった事も度々あった。比の様な状態では曳航中の危険が余り大いのでまず手始めに船団構成の改造を48年度より順次そろえて行くように会社側と話しあいで実行していった。まず手始めに48年12月に秋田造船にて200t積みの台船と50馬力曳船兼通船を建造。更に専用の曳船用曳船も検討に入っていた。

(続)

タ・イ・ム・ス・ケ・ジ・ユ・ー・ル

1月

1月8日 仕事始め
15日 成人式
17日 社内安全集会

2月

2月3日 節分
4日 立春
11日 建国記念の日
28日 全国火災予防運動

3月

3月3日 ひな祭
6日 啓蟄
21日 春分の日

編集後記

躍進4号の発刊に当って前任者が、日常業務の多忙により編集業務に時間が取れず急遽私に廻って来ました。適任者が決定するまでの一時的なものと考えて居りますが、この為紙面の内容等が不十分な点は多々あると思われ。印刷する時間等の制約もあり今回は取り合えず、このまま新年号として発刊の運びとなりました。

本年も厳しい経済情況下でありますので、(株)加藤組も厳しい環境下にあるものと考えられます。こういう時こそ従業員一同が一丸となりこの難局に挑戦しこれ乗り越えて行かねばならないと思っております。この観点から創意工夫と努力をして、この観点から創意工夫と努力の掲載にスペースをさききたいと考えております。我々現場代理人の方は編集者へ申し出て下さい。この他に掲載の内容についても、例えば趣味のコナー等も必要かと思っております。是非原稿の応募をお願い致します。